

組分けテスト対策

※ 問題用紙は(その一)から(その六)までありますから、注意してください。
※ 答えは、別紙の解答らんに書き入れなさい。

1 10

次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなはひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|--------------|----|---------------|
| 1 | セイミツに作られた時計。 | 2 | 人気ゼツチヨウの歌手。 |
| 3 | 将来カチが上がる品だ。 | 4 | トウシユが選挙演説をする。 |
| 5 | 不純物をジヨキヨする。 | 6 | 大自然のシンピにふれる。 |
| 7 | 主君の敵をウツ。 | 8 | やさしくホガラカな人柄だ。 |
| 9 | 税金をオサメル。 | 10 | 紙くずをごみ箱にステル。 |

2 28

次の各問いに答えなさい。

問一 4

次の各文について、文全体の主語・述語を選び、それぞれ記号で答えなさい。各文に主語または述語がない場合は、それぞれ×で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----|---|---------|---|-----|---|---------|---|--------|
| 1 | ア | ねえねえ、 | イ | 昨日 | ウ | 新しく | エ | 買った | オ | 黄色い | カ | ハンカチは？ |
| 2 | ア | 2020年、 | イ | 東京で | ウ | オリンピックが | エ | 夏に | オ | 開催されます。 | | |

問二 8

次の各文は、アⅡ単文、イⅡ重文、ウⅡ複文のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | 公園では、たくさんのお家族連れが休日を楽しんでいた。 |
| 2 | 父の書いた小説が、芥川賞の候補になった。 |
| 3 | 兄はサッカーが好きで、私はテニスが得意だ。 |
| 4 | 赤い花が草原いっぱいに咲き乱れた。 |

問三 8

次の各文中の「らしい」は、アⅡ形容詞をつくる接尾語の「らしい」、イⅡ推定の助動詞「らしい」、ウⅡその他、のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------------|
| 1 | 彼が目的の人らしい。 | 2 | あの虫はかわいらしい動きをする。 |
| 3 | めずらしい動物を探す。 | 4 | すがすがしい学生らしい態度をとる。 |

問四 8

次の各文の——線部から連体詞を二つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|--------|---|-----|---|-----|---|-------|---|--------|
| 1 | ア | いかなる | イ | 状況に | ウ | であっても、 | エ | この | オ | 部屋を | カ | のぞいては | キ | いきません。 |
| 2 | ア | ある | イ | 朝、 | ウ | 突然 | エ | 大きな | オ | 雲が | カ | 空に | キ | 現れました。 |

3 62

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくは、リレーに出場することになった。
それも、市内の小学校の陸上クラブの対抗戦。4×
100リレーの六年生の部。

① これって、すごくない？

君には、どうってことないのかなあ。ぼくにとって5
は、a たいした事件なんだけど。
だって、ぼくは、もともと、そんなに脚が速いほう

ではなかった。b 遅い^{おそ}とまでは言わない。でも、まあ、
ふつうだろう。

それなのにリレーのメンバーに選ばれた理由は、実
に簡単^{かんたん}。

ぼくの小学校では、陸上クラブは人気がない。最初
から部員が少ない。サッカーなんかとくらべると、な
んか c 地味^{ちみ}な感じですよ。

五年国語（組分けテスト対策）（その二）

そのうえ、練習がわりと単純であきる。だから、途中で何人もやめた。

夏の大会の時点で、男子六年生の部員は、ぼくもふくめ、なんと四人になっていた。つまり、4×100リレーに出る四人。

（中略）

走ることだけではなく、ぼくは、すべてが「ふうう」なんだと思う。勉強でも、運動でも。あまり、おもしろいことも言えない。

そういう子にとっては、小学校生活は、そんなに愉快じゃない。

そう。だから、ぼくは消しゴムを持っていた。②ぼくのための特製の消しゴム。何かいやなことがあると、ぼくは、いそいでその消しゴムをかける。

国語の授業なんて、いい例だ。

窓の外をながめていると、教科書に何を書いてあるのか、ぼくには、わからなくなってしまう。わからなくなっていると、よく先生に当てられる。

雲が流れているのを見ていたんだから、当然、ぼくは答えられない。あるいは適当な答えを言ってみる。みんなに笑われる。

ぼくは、ぼくの消しゴムをひとこすりした。すると、国語の教科書も、先生も、f消える。

ひとり、ぼつんと立たされているぼくの前から、黒板が消え、クラスの子たちが消え、教室が消えていく。

女子チームもリレーに出場する。毎日の練習の終わりには、男女で、実際に四人通してレースをやった。もちろん、女子に負けるわけにはいかない。

で、勝敗は、明らかに三走のぼくにかかっていた。竹田までは、ぼくたち男子チームがリードしている。45

ぼくの番になって、途中で抜かれる。抜かれるけど、離さないようにがんばる。すると、福岡が女子を抜きかえす。それがパターン。

あまり、楽しいパターンではない。リレーの練習をしていると、変なことが起こってきた。50

女子でいちばん速いのは、第一走者の児島さんだった。うちの学校の六年生の男を全部集めても、児島さんに勝てるやつは、そんなにいないと思う。女の子たちの間では、コジコジと呼ばれてる、児島さん。

変なのは、その児島さんではなくてぼくのほうで、ぼくは、いつのまにか児島さんを見ている自分に、気がつくようになった。

児島さんが、スターティング・ブロックをセットする。足の幅をていねいに調整している。

「位置について」の合図。

ライン手前に両手をつく児島さん。「用意」で、児島さんが腰を上げる。クラウチング・

スタートの姿勢は、猫みたい。児島さんの真剣な顔つき。額に汗が光っているのがわかる。

③ぼくは、なんだか恥ずかしくなって、むりやり目をそらす。

竹田とぼくのバトン・パスは、だんだんとともになってきた。何回かに一回は、呼吸がみごとに合う。そうすると竹田は喜んで、バトンでぼくの頭をパカパカたたいた。

そんなふうにして放課後の陸上クラブの練習が終わると、ぼくは竹田ではなく福岡と一緒に帰っていた。第二走者より第四走者のほうがやさしいっていうせいではない。もともと、家が近いから。

それが、いつのまにか、そこに児島さんが加わるようになった。たしかに児島さんも、方向が同じといえ

ば同じだった。福岡と児島さんが、話をしていた。ぼくは、ふたりがしゃべるのを聞いていた。ときどき、児島さんがぼくに何か言った。ぼくは、驚いて、適当に返事する。国語の時間みたいだ。

国語の時間みたいに、雲を見ていたわけではなかったのだけ。

大会の日、ウォーミング・アップの時間に「ぼく」は福岡と児島さんが仲良く話しているのを目にする。

予選のレース。ここで二位までに入っておかないと、決勝に進めない。先生の予想では、なんとかいけそうだっていうんだけど。

ぼくは三走だから、バック・スタンドの前でバトンを受ける。はるかかなた、トラックの対角線上でレースが始まる。第一走者たちの腰が、きれいにそろって上がった。ピストル。

一発でスタート。いちばん後ろで大きく遅れてる選手はいるけど、前のほうはあまり差がひらかない。一走から二走へ。竹田がバックの直線を来る。たぶん、二位。

ぼくは、腰を落とし、タイミングをはかる。よし。スタートを切る。

一、二、三。前を向いたまま、ぼくは後ろに手を伸ばす。ぼくの手に、バトンがたたきつけられる。痛いくらいだ。

呼吸は合った。ぼくは、走る。いつもは長く感じられる百メートルは、あっという間だ。

五年国語（組分けテスト対策）（その三）

ぼくのレーンの先では福岡が大きく腕を回していた。三位。もしかしたら四位になってるのかも。

④ 第四コーナーの外には、応援の生徒たちがいた。何か叫んだり、手をたたいたりしている、小学生のかたまり。

ぼくの目に児島さんの姿が飛び込んだ。115

そのとき、突然、なんだか黒いものがわいてきた。

黒くて重い何かが、ぼくの心の中に広がっていく。

ぼくは、思いだしてしまった。

さっき、スタンドで、福岡がコジーと言ってたことを。

コジー、と児島さんに話しかける福岡。それに対し

て、笑って答える児島さん。福岡が児島さんをそう呼

ぶのを、ぼくは、初めて聞いた。

内側のレーンのやつが出て来たのに、ぼくは気づく。

並ばれてしまう。あと少してバトン・パスなのに。

ぼくのせいで、リレーは予選落ちになってしまいそう。125

⑤ 消しゴム。

ぼくの、あの消しゴム。

ぼくが消しゴムをかければ、消えていく。隣のレー

ンのやつも、応援の生徒たちも。

消しゴムにこすられて、児島さんが消え、陸上競

技場が消える。130

福岡が、叫ぶのが聞こえた。ファイト、と言ったのだ。

ぼくは、けんめいにスパートする。ぼくのからだは、

ぼくを走らせる。

リレー・ゾーンにはいる。福岡が走り出す。

でも、いつものタイミングより、少し早い。福岡の

背中が、遠くに感じられる。

福岡は、スピードをゆるめようとしないう。バトン

を、福岡の手をめぐり、振り切られてしまいう。140

リレー・ゾーンの線が目にはいる。チャンスは、い

ましくない。

ハイッ、と叫んで、ぼくは思いっ切り飛び込んだ。

福岡が後ろに手を伸ばした。

からだをひねり、右手をまっすぐに伸ばす。バトン

を、福岡の手をめぐり、倒れこむようにして突き出す。145

なんとか、届きますように。

ぼくは、勢いあまって、ころんてしまった。顔をあげ

ると、ゾーンが終わるラインのぎりぎりのところだった。

ぼくは、トラックにはいつくばったまま、ゴールに

向かうアンカーたちの背中を見ていた。150

「ごめん、失敗した。スタートが早すぎた。きつと、

あせってたんだと思う」

ゴールにみんなが集まったとき、福岡は真剣にあや

まった。155

ぼくの膝はすりむけて血が出ていた。肘もひりひりする。

福岡は速かった。二着。

決勝進出だ。

「よく落とさなかったわね。先っぽしか、つかめな

かったでしょ。やっぱり、福岡君、うまい。結果とし

ては、最高のバトン・パスよ」

児島さんが、興奮している。

ぼくは、なんだか、ばかばかしくなっていた。

何がって？

もちろん、消しゴムのこと。

結果がいろいろいうんなら、それで、いいか。あれ

が最高のバトン・パスだったかどうかは、あやしいけど。

それに、まだ決勝がある。

傷の手当てをするようにって、役員のひとに言われ

た。トラックのわきのテントを教えてもらった。

歩きながら、ぼくは考えた。

あのとき、ぼくが消したかったのは、児島さんでも

陸上競技場でもない。いつも福岡と児島さんの隣でだ

まっている、ちっぽけな自分の姿だったのだろうと。

校庭を大回りで五周。

風が冷たかった。陸上クラブは、駅伝に向けた練習

をしている。ぼくは、福岡と並んでトップでゴールイン。

「ほんと知らなかったよ、おまえに、こんな、才能が、

あったなんてな……」

遅れてゴールにはいつてきた竹田は、息をぜいぜい

させてる。

それは、ぼくも知らなかった。

でも、才能っていうほどのものでもないと思う。ク

ラブでのトレーニングの成果と呼ぶべき。

あと、夜に家の周りを走ってるのも、少しは役に

立ってるかなあ。

五・六年の合同チームが出場する駅伝では、アン

カーをする予定。最後にタスキをもらう役だ。バトン

ではなく。

夏の大会の4×100リレーは、結局、決勝で六着

だった。つまり、うちの陸上クラブは、市内の小学校

全体で六番目に速いということ。

駅伝では、その順位を上回るのが一応の目標になる。

意外に長距離に向いていたとはいっても、ぼくは、

そんなにすごいランナーになれると思ってるわけでも

ない。ぶっちぎりで区間賞をとるとか、市の記録を破

るとかいうような。

まあ、B「ぶつう」の選手かな。

けれど、それは、どうでもよかった。

君にも、わかってもらえるかな。ぼくは、単に楽し

い。走るといふことが。今日は、昨日よりも速く走れ

るかもしれないんだから。

⑥ 消しゴムは、いらぬ。

あくまで、いまのところは、だけどね。

（川島誠「バトン・パス」『夏のこどもたち』所収）

五年国語（組分けテスト対策）（その四）

問一⑥ ――線 a s f の言葉の品詞を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 副詞
カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞

問二⑥ ――線①「これって、すごくない？」とありますが、「ぼく」がこのように思った理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 決して脚が速くはない「ぼく」が、市内の陸上大会でリレーの選手に選ばれたから。
イ 「ぼく」は平凡なランナーだったのに、リレーに出るほど脚が速くなったから。
ウ 人気のない陸上クラブでも市内の小学校の対抗戦リレーに出場できるから。
エ すべてが平凡な「ぼく」が、単純な練習を毎日続けることができたから。

問三⑥ ――線②「ぼくのための特製の消しゴム」とありますが、これを使うときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 落ち込むことがあったときに使うと、元氣を取り戻すことができる。
イ 腹立たしいことがあったときに使うと、冷静になることができる。
ウ 気に入らないことがあったときに使うと、現実を忘れることができる。
エ 悲しいことがあったときに使うと、悲しみを和らげることができる。

問四⑥ ――線③「ぼくは、なんだか恥ずかしくなって、むりやり目をそらす」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 脚の速い児島さんに負けたくない思いでつい彼女のことをにらんでしまいが、良くないことだと反省している。
イ 思いを寄せている児島さんを無意識に見つめてしまいが、そんな自分の気持ちを必死におさえている。
ウ 走る前の児島さんの真剣な表情を感じしながら見ていたが、自分も練習に集中しようと思い直している。
エ 児島さんのことが気になって自然と視線を向けてしまいが、見ていることを彼女に気づかれてあわてている。

問五⑤ ――線④「黒くて重い何か」とありますが、これを言い換えたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 向上心 イ 恐怖心 ウ 嫉妬心 エ 平常心

問六⑥ ――線⑤「消しゴム。ぼくの、あの消しゴム」とありますが、

１ このときの「ぼく」が「消しゴム」に頼ろうとしたのはなぜですか。五十字以内で答えなさい。
２ 結局、「ぼく」がこのとき消そうとしていたのは何でしたか。文章中から九字で抜き出して答えなさい。

問七⑦ ――線 A・B「ふつう」とありますが、AとBの間には「ふつう」ということに対する「ぼく」のとなえ方の違いがあります。その違いを説明したものととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア Aはあらゆることが平凡でもそれが自分らしいと大切に感じているが、Bではどんなに頑張っても抜きん出た結果を出せない自分にあきらめを感じている。
イ Aは平凡なせいで小学校生活が愉快ではない自分に失望しているが、Bでは平凡なおかげで目立たずに済み、穏やかな気持ちで生きていけることに感謝している。
ウ Aは自分に優れたところが一つもないことを悲観的にとらえているが、Bでは今は平凡でもいずれは優れた能力や才能に目覚めるはずだと楽観的にとらえている。
エ Aは平凡な能力や才能しか持たないことを後ろ向きにとらえているが、Bでは突出したものはないが努力を積み重ねれば着実に結果を出せるのだと前向きにとらえている。

問八⑩ ――線⑥「消しゴムは、いらない」とありますが、それはなぜですか。五十字以内で答えなさい。

4
50

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

街で見つかる、ちょっとした不便さ、ちょっとした発見、ちょっとした楽しさ。愛知万博に登場したさまざまなロボットたちも、そうした感覚の延長線上に製作されたものですし、いま、大学やメーカーの研究所で製作されている試作機たちも、ぼくらの生活を改善し、社会貢献を目指しているものが多いのです。

5

入院しているおじいちゃんやおばあちゃんのために役に立ってくれるロボット。医者や看護師のハードワークを、少しでも軽くしてくれるロボット。共働きで忙しい両親の代わりに、弟や妹の世話をしてくれるロボット。クラスや部活のみんなをまとめるためにサポートしてくれるロボット。火事や地震など、災害が発生したときに、救助活動をしてくれるロボット。

10

こんなふうに、いろんな可能性が考えられますよね。

街に出て、ロボコンやミュージアム、――、イベント会場で、実際のロボットに接してみること。そして、もう一度、身の回りを見渡して、「こんなところでロボットが手助けしてくれればいいのになあ」と想像すること。そこから、ロボットの未来はどんな広がっていく。

15

と同時に、ロボットの未来を考えることは、皆さんの未来を考えることにも結びつく。いや、①皆さんが、自分の未来を思い描いたときに、そこにロボットが関わってくる。そう言い換えてもいいかもしれない。「えっ？ それってどういうこと？」と思うかもしれませんね。

2

以前、こんなことがありました。

ぼくは、2006年度から2008年度にかけて、東北大学機械系の特任教授を担当していました。簡単に言うと、機械工学の分野で研究していることの面白さを外部に伝える役回り。いわば宣伝マンです。

20

全国の大学で実施されているオープンキャンパスというイベントがあります。これは高校生に来校してもらい、実際の大学の空気を味わってもらおうというものです。

②

あるとき、女子高生が来ていたんですね。彼女は、工学よりも、むしろ福祉関連に興味を持っていて、卒業後は福祉系か看護系の学校に進学しようと考えていた。工学部という選択は、まったく考えていなかったらしいのです。③けれども、スタッフの案内でキャンパスを回るうちに、新しいコンセプトの車椅子を展示している研究室に巡り会ったのです。その研究室は滑りにくい新素材を米ぬかというエコな素材から開発している研究室でした。その滑りにくい素材を使って、堀切川一男教授のグループは車椅子のホイール部分をうまく制御する小さな機械を考案したのです。

25

ふつう、車椅子に乗って右へ曲がるときは、左側のホールを回します。でもそれだと大回りになって、機動性がよくない。でもこうしたらどうでしょう。左のホイールを前に回すとき、同時に右のホイールを後ろ向きに回したら？ その場で車椅子は回転できます！ 滑りにくい素材で左右のホイールをうまく制御すれば、手元のジョイスティックで軽々と車椅子を動かせる。小回りが利くのでエレベーターの中で方向転換できますから、わざわざ後ろ向きにエレベーターを乗り込む必要ありません。とても患者さんにやさしい技術なのです。

30

これは滑りにくい素材を使った応用例のひとつにすぎません。しかしその女子高生は車椅子に実際に座って、自分で動かしてみること、工学というものが福祉や看護と無関係ではないということに気がついた。工学と医学が融合した医工学という新しい分野に触れ、関心を持ったというのです。

35

それまで彼女は、人のいのちを助けるためには福祉関連の大学に行くのが当たり前の進路だと思っていたのですね。でも工学を学ぶことで人のいのちを救うこともできるんだ、と初めて気づいた。そう語ってくれました。彼女は福祉とロボットが交差する未来を発見したのです。

40

東北大学では、微小機械システムや血液循環系のバイオメカニクス（生体力学）、あるいは、聴覚のメカニズムを再現したり、細胞やタンパク質を利用した生命・工学のツールを開発したりと、多彩な研究が行われています。足腰が弱っている人のための装着型歩行支援システムや、電動車いすのための新しい駆動ユニットの開発も行われています。

45

こうした研究の根っこには、当然、患者さんやお年寄りの環境を、より良いものに変えていきたいという思いがある。病気で苦しんでいるおばあちゃんを助きたい。そう願って、医学部や看護学部への進学を決める人は大勢いるでしょう。

3

それと同じように、工学部に進むという選択肢があってもいい。

おばあちゃんを助けたいという気持ち。それが、自分に何ができるかを考えるきっかけになります。自分でできることは、自分でやってしまえばいい。では、自分でできないことは、どうすればいいだろう。

50

装着型歩行支援システムは、そういう素朴な思いから開発されたものです。

毎日、おばあちゃんの手助けができれば、それにこしたことはない。けれども、時間的にも肉体的にも、そうすることが難しいのが実情でしょう。それに、おばあちゃんだって、気兼ねしてしまいうに違いない。

そのとき、④装着型歩行支援システムのような技術があれば、おばあちゃんにとっても、周囲の人たちにとっても、ありがたいでしょう。

④、皆さんが、いま関心を持っていることとロボットを結びつけたって、全然かまわない。むしろ、そうすることで、ぼくらの未来が広がっていく。

これは、医療や看護に限った話ではありません。情報技術や環境問題、⑤生命科学や動物行動学への関心を、ロボットに持ち込むことだってできる。

たとえば、昆虫採集や植物の観察を通して、虫の動きや草花のかたちのふしぎさに触れたことがある人は、大勢いるでしょう。ロボットでそれらを再現することで、生物というものの特性や、生きているということの本質を掴むことができるかもしれません。

（瀬名秀明『ロボットとの付き合い方、おしえます。』より）

問一⑧ 1 4 にあてはまる言葉として適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア けれども イ つまり ウ たとえば エ または

問二⑥ ——線①「皆さんが、自分の未来を思い描いたときに、そこにロボットが関わってくる」とありますが、これはどういうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア より便利で快適な生活を想像することで、今あるロボットの新たな活用法に気づくということ。

イ どのようなロボットなら作れるのかを想像することで、私たちが今後実現できることが見えてくるということ。

ウ 将来の暮らしを想像することで、これから必要なロボットと不必要なロボットが判別できるということ。

エ 理想とする生活を想像することで、それを実現するための新たなロボットのアイデアが生まれるということ。

問三⑫ ——線②「あるとき、女子高生が来ていた」とありますが、

ー 筆者が「女子高生」の話をした目的として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 工学に興味がない学生でも、実際に見学すれば興味が生まれることを示すため。

イ 新しいコンセプトのロボットを開発することに興味を持つ学生が多いことを示すため。

ウ 体験することで、やりたいことと機械工学の関連性に気づくことがあると示すため。

エ 機械工学という学問がいかに学生をひきつける魅力的なものであるかを示すため。

2 「女子高生」はこの日のオープンキャンパスで何を見つけましたか。文章中から十四字で抜き出して答えなさい。

問四⑫ ——線③「新しいコンセプトの車椅子」とありますが、具体的にはどのような「車椅子」ですか。次のように説明したとき、Aにあてはまる言葉を文章中から七字で抜き出さない。また、Bは文章中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

のよう A で左右のホイールをうまく制御することで、 B できる車椅子。

問五⑥ ——線④「装着型歩行支援システムのような技術」とありますが、こうした技術の根底には何があるかと筆者は述べていますか。文章中から三十三字でさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問六⑥ ——線⑤「生命科学や動物行動学への関心を、ロボットに持ち込むことだってできる」とありますが、筆者は、その結果どのようなことがわかる可能性があると述べていますか。文章中から二十五字でさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

予習シリーズ5年下⑤第5回五年国語組分けテスト対策 解答用紙

(3の1)

氏名

<div>623</div> <div>問二⑥ 29</div> <div>問三⑥ 30</div> <div>問四⑥ 31</div> <div>問五⑤ 32</div>	<div>282</div> <div>問三② 17 2 18 3 19 4 20</div> <div>問四④ 21 2 22</div> <div>問一② 主語 述語 2 主語 述語 12</div> <div>問二② 13 2 14 3 15 4 16</div>	<div>11</div> <div>6 7 8 9 10</div> <div>1 2 3 4 5</div>
--	---	--

予習シリーズ5年下第5回五年国語組分けテスト対策 解答用紙

(3の2)

氏名

問六

⑩

—

[illegible]

⑥
2

[illegible]

問七

⑦

35

問八

⑩

[illegible]

47

46

[illegible]

44

[illegible]

42

37

2

38

3

39

4

40

41

氏名

予習シリーズ5年⑤第5回5年国語組分けテスト対策 解答用紙

- ① 1 精密 2 絶頂 3 価値 4 党首 5 除去
6 神秘 7 討つ 8 朗らか 9 納める 10 捨てる
- ② 問一 1 カ・× 2 ウ・オ《それぞれくんで》 問二 1 ア 2 ウ 3 イ 4 ア
問三 1 イ 2 ウ 3 ウ 4 ア 問四 1 ア・エ 2 ア・エ《それぞれくんで》
- ③ 問一 a カ b ウ c エ d ア e キ f イ
問二 ア 問三 ウ 問四 イ 問五 ウ
問六 1 児島さんへの思いが届かないうに、リレーも自分のせいで予選落ちになりそうなのがつかったから。
2 ちっぽけな自分の姿
問七 エ
問八 自分が長距離走に向いていることがわかり、走る楽しさが感じられるようになって、自分に自信がついたから。
- ④ 問一 1 エ 2 ウ 3 ア 4 イ 問二 エ
問三 1 ウ
2 福祉とロボットが交差する未来
問四 A 滑りにくい素材
B その場で回転すること（その場で方向転換）
問五 患者さんや
問六 生物という

解説

- ③ 出典は、川島誠「バトン・パス」〈角川文庫〉。
- 問二 ——線①「これって、すごくない？」の「これ」とは、直前の「ぼく」が「市内の小学校の陸上クラスの対抗戦」で「リレーに出場することになった」ことを指しています。そして、それが「すごくない？」＝“すごい”といえる理由は、——線①の後に「だって、ぼくは、もともと、そんなに脚が速いほうではなかった」からだと書かれています。
- 問三 ——線②の直後に「何かいやなことがあると、ぼくは、いそいでその消しゴムをかける」とあります。そして、「ぼくのための特製の消しゴム」を使うときの例として「国語の授業」が挙げられています。この「消しゴム」は、いやなことがあったときに、それをなかったことにする（＝現実から目を背ける）ためのものなのです。
- 問四 まずは、——線③「なんだか恥ずかしくなって、むりやり目をそらす」という“気持ち＋反応”を引き起こしている“出来事”をおさえましょう。すると、——線③の前には「ぼくは、いつのまにか児島さんを見ている自分に、気がつくようになった」とあります。つまり、「ぼく」は児島さんのことが気になっている（＝好き）なのです。だから、つい彼女の姿を目で追いかけてしまうのですが、そんな自分に気づいて「恥ずかしくなって」いるのです。そして、そんな自分の気持ちを必死に抑えようと、「むりやり目をそら」しているのです。
- 問五 ——線④の後は、「ぼくは、思いだしてしまった。さっき、スタンドで、福岡がコジーと言ったことを。」とあります。思いを寄せる児島さんと、チームメイトの福岡が仲良くしている姿を想像して、「ぼく」の中にウ「嫉妬心」が生まれたのです。
- 問六 まずは、「ぼく」が——線⑤「消しゴム」を出そうとする直前に何があったのかをおさえましょう。問五で見たように、思いを寄せる児島さんは福岡と仲良くしています。つまり、児島さんへの「ぼく」の思いが成就することはなさそうです。また、「内側のレーンのやつが出て来たのに、ぼくは気づく。～ぼくのせいで、リレーは予選落ちになってしまいそう。」とあるように、リレーも自分のせいでチームが負けてしまいそうな状況にあります。これらは問三で見た「いやなこと」なので、そうしたつらく苦しい現実から目を背けるために「ぼく」は「消しゴム」に頼ろうとしたのです《→1》。しかし、結果的には福岡の「ファイト」という叫び声を聞いて、「ぼく」は間一髪のところ現実で引き戻され、何とか福岡にバトン・パスすることができました。そして、決勝進出を決めた後、トラックわきのテントで傷の手当てを受けながら、「あのとき、ぼくが消したかったのは、～いつも福岡と児島さんの隣でまわっている、ちっぽけな自分の姿だったのだらうと」振り返っています。《→2》
- 問七 A「ふつう」の後には、「勉強でも、運動でも。あまり、おもしろいことも言えない」ために「小学校生活は、そんなに愉快じゃない」と書かれています。つまり、「ふつう」であることを“マイナス”にとらえています。しかし、B「ふつう」の前には「ぼくは、そんなにすごいランナーになれると思ってるわけではない。ぶっちぎりで区間賞を

ととか、市の記録を破るとかいうような」とあるものの、「クラブでのトレーニングの成果」によって「駅伝（長距離）」ではアンカーを任せられるような実力を発揮していることが書かれています。つまり、「ふつう」であることを「プラス」にとらえているのです。「ふつう」だから学校生活が愉快じゃない ⇔ 「ふつう」だけど努力を積み重ねれば結果を出せる、という対比です。

問ハ 問三で見たように、「消しゴム」は「厳しい現実から目を背ける」ためのものでした。したがって、——線⑥「消しゴムは、いらない」と考えるようになったということは、「厳しい現実に向き合えるようになった」ということを表しています。あとはその理由を付け加えましょう。「意外に長距離に向いてい」ることがわかり、「走るということが」「単に楽しい」と感じられるようになったことが、その理由です。

④ 出典は、瀬名秀明『ロボットとの付き合い方、おしえます。』〈河出書房新社〉。

問一 1 前後で「ロボコンやミュージアム」と「イベント会場」を選択的に並べています。

2 ——線①「皆さんが、自分の未来を思い描いたときに、そこにロボットが関わってくる」と述べたことについて、2の後「以前、こんなことがありました」とその例を挙げています。

3 「病気で苦しんでいるおばあちゃんを助けたい」と願ったとき、「医学部や看護学部への進学を決める人は大勢いる」はずですが、筆者は3の後で「それと同じように、工学部へ進むという選択肢があってもいい」と対比的な内容が述べられています。

4 4の前では「病気で苦しんでいるおばあちゃんを助けたい」という思いから、「装着型歩行支援システム」が生まれるという内容が書かれています。そして、4の後では「皆さんが、いま関心を持っていることとロボットを結び付けたって、全然かまわない」と言い換えてまとめています。

問二 「どういうことですか」と問われているので、「傍線部を言い換える」という方向で考えます。——線②は「皆さんが、自分の未来を思い描いたときに、／そこにロボットが関わってくる」と分けることができるので、それぞれを適切に言い換えた選択肢を選びましょう。本文でも——線①の前には、「街で見つかる、ちょっとした不便さ、～楽しさ」を新たなロボットの製作に活かすということが書かれていますね。

問三 「女子高生」は、「工学よりも、むしろ福祉関係に興味を持っていて、卒業後は福祉系か看護系の学校に進学しようと考えてい」ました。しかし、この日のオープンキャンパスで「車椅子に実際に座って、自分で動かしてみることで、工学というものが福祉や看護と無関係ではないということに気がついた」のです。つまり、体験を通して、自分がやりたいことと機械工学の関連性に気づいたのです《→1 ウ》。そして、筆者はそれを「彼女は福祉とロボットが交差する未来を発見したのです」と表現しています《→2》。

問四 「新しいコンセプトの車椅子」については、——線③を含む段落とその次の段落で具体的に書かれています。「滑りにくい素材」を活用することで、車椅子の左右のホイールをうまく制御し、「その場で」「回転（方向転換）」できるという点が「新しい」のです。

問五 問三・問四で見た「女子高生」の例が終わると、1行空いた後、福祉や看護と結びつくさまざまな工学系の研究が実際に行われていることが紹介されています。そして、筆者は「こうした研究の根っこには、当然、患者さんやお年寄りの環境を、より良いものに変えていきたいという思いがある」と述べています。「装着型歩行支援システムのような技術」もまたその一例として挙げられた、「おばあちゃんを助けたいという気持ち」から生まれる工学系の技術です。

問六 ——線⑤「生命科学や動物行動学への関心を、ロボットに持ち込むことだってできる」の直後に「たとえば」という「例示」の接続語をはさんで、その一例が挙げられています。筆者は、「虫の動きや草花のかたちのふしぎさ」をロボットで再現することで、「生物というものの特性や、生きているということの本質を掴むことができるかもしれません」と述べています。